

◆ 看護研究相談・支援

《様々な段階に応じた看護研究に関する研修会を開催》

【実績】 1施設から研修会の申し込みがあり、5月26日に開催した研究者向けの「テーマの絞込み」を皮切りに年間を通して研修会を企画し実施した。当研修会は研究者と指導者向けの研修であり、参加者は37名であった。

又、12月13日及び3月28日に開催した「Jナースカフェ」においては、看護研究に必要な統計分析についてのエクセル操作の実際を、パソコンを使って研修した。

【成果】 看護研究に関する研修会の開催については、依頼先の企画と要望に沿った研修を行うことができた。研修会では、研究者に対する研修として「看護研究のテーマの絞込み」と「論文の書き方」を、看護研究委員会のメンバーに対する研修として「査読のポイント」をテーマに行い、3月に行われた同施設での院内看護研究発表会では講評も担当した。研修会についての参加者アンケートでは90%以上の人が「まあまあわかった。よくわかった」と回答しており満足度も高かった。

Jナースカフェでの研修会では、実際にパソコンを使用しているエクセルの使用方法を学ぶ内容であり、参加者から満足度の高い感想が得られた。又、「もっと学びたい」、「今後活用できそう」との声が聞かれた。

【実施上のポイント】

- ・ 臨床上の問題や疑問を看護研究に繋げるには、疑問や課題がどのように構成されているかについて実施者側と繰り返し検討することが必要である。このことにより、実施者自身がリサーチ・クエスチョンを明らかにしていくことが可能となるが、依頼先の病院の看護研究の実施状況により異なるが、その際は平易な言葉で例を用いての説明が理解を深めるようである。又、参考図書の提示もあると良い。
- ・ 看護研究におけるパソコンの活用は、結果を導き出すツールとしてだけでなく、研究の本来の目的を明らかにするために、結果を適切に表現するツールでもあるので重要である。このようなことから、パソコンの操作に不慣れな場合には、機会があるごとに短時間でも操作を実際に繰り返して行うようにすると良い。

《看護研究相談の実施》

【実績】 今年度の新規申し込みが26件あり、昨年度からの引き続きの相談とあわせて29件の看護研究の相談支援に対応した。延べの相談回数は90回であった。主な相談内容は、「テーマの決定」が9件、「研究計画書の作成」が11件、「データ収集・分析」が14件、「考察・まとめ」が15件、「発表に関するもの」が25件であった。

【成果】 看護研究相談・支援を実施してきて以来、毎年10件を超える新規の研究相談があり、看護研究相談・支援事業の周知がすこしずつ図られてきていることが伺えた。

看護研究相談・支援を受けた看護研究の発表も、学会発表が2件、院内発表が12件、老健地区発表が13件となっている。又、小規模病院等看護師との共同研究を1件行っている。

【実施上のポイント】

- ・ 研究の助言は、可能であれば相談者と対面し、研究目的を明らかにする過程でお互いの疑問を検討したり、基礎的な知識を確認したりしたのちに、次の段階に進んだほうが良い。
- ・ 面談を行うのが時間的に難しい場合などは、タイムリーな指導を行うためメールや電話・FAXなどを用いることもあるが、文字による意思疎通には限界があるので可能な限り、初回の出会いで信頼関係を構築し、相談者側の意図を汲み取っていく必要がある。
- ・ 相談者の環境によっては文献を探したり、手に入れることが難しい場合があるので、文献検索の方法を伝えたり、関連する文献を提示することも必要である。